



Vol, 37 No. 4
2021. Mar



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jp>
会長 高橋 敏弘
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483
E-mail akita_ot_kouhou@akita-ot.jp
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号
TEL/FAX 018-837-0552
E-mail akita_ot@akita-ot.jp

巻頭言 豪雪との格闘の日々

平鹿総合病院 寺尾 崇

現職場に勤務し3年目の冬、横手の冬の厳しさを痛感している。昨シーズンは暖冬であったため、通勤などでは全くといていいほど苦労はなかった。地元のスタッフからは、「冬の間車にスコップを常備して職員駐車場を出る際、雪寄せしなければ出れない」などと聞いていたが今一つ実感がなかったように思う。しかし今シーズンは一転、年明け前から連日の大雪。

お恥ずかしい話だが、すでに数回遅参をしている。始業時間までに職場にたどり着けないのである。除雪作業による渋滞、交通事故による渋滞等、様々である。道端で動けなくなる車、それをレスキューする人たち。自分もスタックして道を塞いでいる車両のレスキューをした。今シーズンほど通勤が大変な年は経験したことが無い。そして出勤前、帰宅後の雪寄せ、休日は家屋・カーポートの屋根の雪下ろしと雪との格闘の日々を送っている。おかげで冬場の運動不足にはならずに済んでいる。

東北(雪国)に住んでいる人は我慢強い人が多いというが、さすがに連日の大雪には勘弁してほしいと思っている。観測史上最大降雪量～の文言にため息がでる。そして「今までに経験したことの無い豪雪」「今までに経験したことの無い震災」

「今までに経験したことの無いウイルス感染症」など改めて自分がすごい時代に生きていることを実感する。

新型コロナウイルスに関しては未だ終息が見えない状況で、大都市圏の医療機関ほどではないものの地方の医療機関にも入院患者が増えてきている状況である。そんな中、2月下旬より医療従事者から順次ワクチン接種が始まるとのことでコロナ収束への道のりが開け、状況が少しでも好転することを春の雪解けとともに切に願っている。



印象記① 秋田県作業療法士会 臨床実習指導者研修に参加して

特定施設入居者生活介護 スマートホーム 保坂 郁磨

令和2年11月28・29日に行われました、厚生労働省指定 臨床実習指導者研修に、今回初めてとなるオンラインでの参加をしました。オンライン研修やオンラインでの学会などはコロナ禍となってからは何度か実施しておりますが、私自身は今年の参加はしておらず、この形態での参加は初めてであったため不安でした。接続説明会を無事に終え、zoomの設定やカメラの角度を何度も確認して本番に挑みました。私たちの班はパソコンに不慣れな方が多く、また私が商業科でパソコンの基本的な操作を学んでいたこともあり、記録まとめや各班の報告を自分が担当していました。記録担当は自分のほかに1名おり、2日目はその方が担当する予定でした。しかし、2日目にその方の回線が不調で記録ができず結局すべてのセッションで自分が担当することとなり、オンラインならではの経験をしました。

さて、今回の研修は臨床実習指導者研修ということでしたが、私自身は補助としても実習生をもったことがなかったため、研修の先生のお話はもちろん、さまざまな病院や他施設の先生方のお話を聞いて、考え方や指導の仕方を学ぶことが出来ました。また今までのような方法ではなく、今後はどのように育成していくのかということや過去の実習生のケースや、自身が受けていたころはどうであったかのケースを交えながらセッションし、より良い臨床実習にしていくことができるように全員で共有することが出来ました。

特に印象的に残ったことは指導方法です。今までは、直接すぐにやってみてフィードバックする方法が自分の時も含めて主流であると感じていましたが、研修では見学-模倣-実施という3段階の方法を活用していくような内容でした。初回で見学を行い、次にOTRの模倣をし、最後にOTR見守りのもと実施を行うという、同じROM検査等の内容を3日構成で行うことです。病院や施設形態によっては賛否が分かれたと思いますが、自分としては最終的な患者様のリスクが少なく行えて見方によっては訓練にもなる、メリットが多くデメリットが少ない方法なのかなと感じました。今後実習生を担当することになった場合にはこの考えを頭に入れた上で指導していきたいです。

今回の研修はオンライン開催ということで、回線不良やマイクの不具合などのトラブルはつきものですが、タイトなスケジュールの中でも大きな遅延などなく受けることができました。従来の集まって実施する研修とは違い、自宅や職場のパソコンを通して行うことで適度な緊張感を持ちながらもリラックスして取り組むことが出来たと感じました。また、オンラインのメリットとして、感染対策はもちろんですが、わざわざ遠方からいらしていただく必要なく講習を受けられる点が大きいです。さまざまな先生方からの手技手法をその場にいながらにして学ぶことができるため、今後は積極的に参加していきたいです。

印象記② 令和2年度「厚生労働省指定臨床実習指導者講習会」に参加して

介護老人保健施設 ゆうとびあ神室 尾久 智紀

令和2年11月28・29日に厚生労働省指定臨床実習指導者講習会が開催されました。作業療法の臨床実習を指導するためには臨床経験が5年以上必要です。加えて、指定の講習会を受講する必要があります。本講習会は、指定の講習会の一つ「一般社団法人日本作業療法士協会が実

施する臨床実習指導者中級・上級研修」になります。私は臨床実習指導に携わった経験が乏しく、指導者としてどのように学生と関わっていくべきか知識や情報を得ると共に要件を満たす為に、講習会に参加させて頂きました。

講義の中で参考になった事は2つ有ります。まず一つ目は「作業療法参加型実習」についてです。これは、実習指導者を手本として臨床体験を重ねることで、作業療法士としての臨床技能・思考過程を習得するといった考えに基づいています。指導方法は「見学」「模倣」「実施」の3つのプロセスとなります。この指導方法は、指導者が一緒に行うため学生の心理的な負担が軽減したり、徐々に段階を踏むため学生の理解度が図りやすく、リアルタイムでフィードバックができたりなどのメリットが有ります。逆に、指導者側の立場としては負担が大きく臨床業務に加え業務時間内に行うには業務配分や時間の確保を考える必要が有ります。そのため、導入するにあたって指導者の業務負担とならないような工夫が今後の課題になるのではないかと感じました。

二つ目は「MTDLP」の導入についてです。従来の実習では、活動や参加に対する臨床経験の機会が少なく、臨床に出てからやり方が分からないといった事が見受けられたとのこと。そのため、MTDLPを実習に導入することにより、トップダウン思考で「生活する人」として対象者を捉え、具体的な生活課題解決に向けた作業療法プロセスを身に着けることが出来るようです。MTDLPを指導するには、指導者がMTDLPの事を熟知している必要があります。しかし、私は現在症例報告まで達しておらず、また臨床業務の中で思考過程としては取り入れているものの、シートを活用することまでは達しておりません。今後の臨床実習指導のためにも、今一度MTDLPについて勉強し直し、日々の臨床業務の中に取り入れていきたいと感じました。

2050年に日本の高齢化率は37.8%になると推測されており、今後地域包括ケアシステムおよび地域づくりの重要性が、より高まってくると感じています。老人保健施設に勤務し地域リハに携わる一員として、卒前教育の段階から活動と参加の部分に焦点を向けられる様、臨床実習指導に取り組んでいきたいと考えます。

今年は例年と違い、新型コロナウイルスの感染予防対策としてZOOMを使用した講習会となりました。私にとってZOOMを使用した講習会への参加は初めてであり、大きな不安を抱えていました。その様な中で、湊先生を始めとする講習会運営に携わる先生方による適切且つスムーズな対応により、安心して受講することが出来ました。また、経験年数が豊富な先生方と意見を交換させて頂き、非常に実りある講習会となりました。

最後になりましたが、今回の貴重な講習会を主催して頂いたスタッフの皆様にお礼申し上げます。

シリーズ「作業療法と生活考」NO. 77

「自分ごととして考える」

秋田大学医学部保健学科 金城 正治

最近では感染予防対策もありカードで買い物をする機会が多くなりました。自分で支払った実感があまりわかりません。自分で財布からお札や硬貨を出すことで買うというからだの動作が省略されているのもあるかもしれません。カードはとても便利です。将来、支払いは全部カードに

なると思います。カードで支払った金額は月末に一括で請求され、自動的に引き落とされます。その内容確認も自分からアクセスしないとどれだけ使ったかが分かりません。皆様は自分の給料から引かれて支払われる所得税、介護保険料などはいくらかご存じでしょうか。やはり給料明細、通帳をみて気づくこともあります。家計簿をつけている方は、パソコンにインプット、記入するなど、からだの動きを伴って実感があるので、まだ収支を把握しやすいと思います。カードの時代だからこそ家計簿が必要なのかもしれません。

このように日常生活におけるからだの使い方や感じ方が省略されて、自分ごとが欠如し、通帳をみる目が他人ごとになってきます。これからの時代はますますからだとして実感しない機会や状況が多くなっていきます。IT時代では、便利な社会になりますが、人としての行動や習慣にも大きく影響してきますので、インターネット、SNSなども含め、人とシステム、人と人、人との、人と生活の関係性をもっと検討する必要があります。

最近パソコンであるソフトを使って入力していましたが、操作が分からない、悩むことがしばしばありました。マニュアルは読みますが書いてありません。私の能力不足もありますが、マニュアルをつくる方は、利用する人の操作を考えて作っているとは思いますが、操作する人を自分ごととして理解していないと、自分の知識と思い込みで他人ごとのように作るようになります。それがマニュアルを分かりにくくしています。ソフトやマニュアルづくりでは連携、シミュレーションしていくことが必須で、そしてQ and Aを更新していくフォローのプロセスをていねいにやる必要があります。我々も臨床でケースに説明している時に相手の理解を自分ごととして理解して話をしているのでしょうか。患者治療者の力関係だと、患者は分からない点、希望や要望をあまり詳しく聞くことは少なくなりますので、こちらが相手を自分ごととして捉えていくのも必要です。

また、仕事や教育において症例報告や実習報告を聞く機会も多いですが、報告者が他人事のように発表していることを感じます。ケースを見ていると思いますが、評価、目標やプログラムに自分ごとの理解が少ないです。科学的思考では客観性が重要ですので、報告に客観性をもたせるのも大事ですが、質問するとうまく説明できない、自分として情報をからだに落とし込んでいないこともあります。当事者意識をもちなさいとよく言われますが、無意識のうちに他人ごとのようになっています。

諏訪らは、「自分ごととして考える」を他者から聴いたことやどこから入手した情報が、自分の身に降りかかったら自分はどうか対処するだろうか、どう感じ、考えて、行動するのであろうかと説明しています。そして、からだを使えば、自分ごととして一人称視点で考えやすくなると思っています。他者の立場になって考える、相手の気持ちになって考えることは、自分ごととして考えることになります。自分ごととして考えることは相互理解になります。そのために以前に書いたファクトフルネスも大事です。

社会人になって仕事や生活において他人ごとでしていることも多くなり、自分ごととして認識、行動していないこともあります。しかし自分ごとで考える、行動することが自己の向上、周りの発展改善につながります。作業療法は他職種と業務が重なることも多いです。だからこそケース、家族、他職種、もの、地域などを自分ごととして捉えることも必要です。そして、からだでの理解、体験を意図的にすることも自分ごとになりやすくなります。

参考本

- 1) 諏訪正樹・藤井晴行：知のデザイン。近代科学者。2015

LDH OUR PROMISE LOVE,DREAM,HAPPINESS,FORALL.

「僕たちはどう生きるか」

【著者】LDH JAPAN 【出版】小学館
 【ページ数】160 頁 【定価】1400 円+税



由利本荘医師会病院 山田由紀

LDH という会社を知っていますか.音楽にあまり興味が無い方でも EXILE や三代目 J Soul Brothers は聞いたことがあると思います.LDH は彼らが所属する日本の芸能事務所で 2002 年に EXILE の初期メンバー6 人が 50 万円ずつ出資し「エグザイルエンタテイメント有限会社」から始まりました.翌年に「株式会社 LDH」を設立し,グループのリーダーである HIRO が代表取締役社長となり,2017 年からは「株式会社 LDH JAPAN」として海外拠点なども新設され,日本が世界に誇れる音楽クリエイター集団として挑戦を続けています.日本では音楽やダンスのみならずアパレルや飲食店,ウエディング等,芸能事務所以外の事業も展開しています.また,“子どもたちに夢の大切さを伝えたい”との想いからサッカーやダンス大会を主催したり,ダンスの課外授業や知的・発達障害をもつ子供達のためのサーフィンスクールの活動にも支援,参加しています.地域社会の活性化及び発展に向けて企業と社会貢献活動の包括連携協定を締結したのも新しい取り組みです.(ウィキペディア,LDH 公式 HP より)

始まりは少ない資金から始まった会社が,なぜここまで大きな会社に成長したのか.そこには LDH の社員と所属アーティストに配られる本『LDH our promise』にありました.『LDH our promise』は「EXILE statement」「EXILE rules for artist」「EXILE rules for staff」「EXPG statement」の4部で構成されています.「EXILE statement」は LDH の原点である EXILE が結成9年目にまとめた宣言で,どのような想いでそれまでを駆け抜けてきたのか,これから何をしていくのかをシンプルに力強く綴っています.HIRO 自身も今でも繰り返し読み,原点回帰するための大切な指針としているとのことでした.「EXILE rules for artist」「EXILE rules for staff」はそれぞれの役割に向けて「EXPG statement」はダンススクールのスタッフや生徒に向けられた想いが綴られています.いずれも若者に分かりやすく伝わりやすい内容となっており,HIRO は“行動や考え方を縛るものではなく,生きるための原動力でありヒントであって,悩んだときや苦しいときに,それでも夢に向かって進んでいきたいときに,何かに気付くきっかけにしてもらいたい”と話しています.そもそも LDH とは Love, Dream, Happiness の頭文字をとったもので,EXILE 結成当初からの合言葉でした.

『LDH our promise』は LDH 全員が志高く活動するための約束であり,LDH のリーダーである HIRO の強い想いと信念,愛情が詰まった一冊であることが分かります.インタビューを受けた約 30 人の LDH メンバーからは表舞台に立つ者,それを裏方で支える者としてそれぞれ自分の役割に誇りを持ちながら,お互いを尊重し合って働いていることが伝わります.これは何より HIRO の謙虚さと行動が結果となって周りの人々を動かしています.

私事になりますが UeL Tokyo/Akita 主帝のマー・バクティ・ヒマギリ (Seiko Taki) 師のもとでバクティヨガを学びました.バクティとはサンスクリット語で「奉仕」という意味です.師は,相手に寄り添い,仕えることの大切さを何度も繰り返し伝えてくださいます.また,強い信念

と希望を持って行動することやみんなが幸せに向かうためのプロセスをヨガを通して、師の背中から教えてくださいます。この『LDH our promise』を読んだとき、共通する部分がとても多いと感じました。日常生活の中で自分の中心軸となるものや目指すものがひとつあるだけで物事の考え方から生き方が変わってきます。人は傲慢になりやすい生き物とされています。人は一人では生きていけないからこそ、どんな相手に対しても謙虚に思いやりを持って過ごしていきたいものです。

職場の同僚との会話から知った LDH の存在。私は特にファンではありませんでしたが、知れば知るほどこの会社に魅力を感じ、今はLDH OUR PROMISEに綴られているHIROの想いがもっともっと多くの人に届きますようにと願っています。

職場紹介

介護老人保健施設 あいぜん苑 長谷川由美子

社会福祉法人愛染会は秋田市上新城に介護老人保健施設と通所リハビリテーション事業所を、飯島に通所介護事業所と居宅支援事業所、上北手に特別養護老人ホームを展開しています。当法人の老健リハスタッフは、作業療法士（以下、OT）が入所専属 2 名、通所リハ専属 1 名、兼務 3 名の計 6 名であり、チームの一員として日々、作業療法に励んでおります。

苑の作業療法を紹介したいと思います。

～老健入所棟・其一～

在宅生活復帰を目指す入所者の方々には、基本動作能力や ADL の向上だけではなく、全ての“生活行為”に着眼し、在宅生活での過ごし方や介護サービスをどのように利用することで“自分らしい生活”を送ることができるかなどを、入所当初から意識していただきながら、作業療法計画を立てています。“自分らしい生活”を再獲得できるよう、生活目標を入所者さんと作業療法士が共に打ち立て、その目標に向かい、共に試行錯誤しながら“協業”しています。それはチームアプローチの一つの経過であり、多職種協働で多くの話し合いの場を持って、進めています。OT は入所者さんの真のニーズを引き出すことができるよう、作業療法の経過の中で様々なやり取りをします。時には冗談を言い合ったり、能力の過大評価に対する修正の話し合いをしたり…。まだまだ、在宅生活復帰に至ることができる入所者さんの数は限られていますが、“自分らしい生活”に向けた生活行為に着眼した作業療法、多職種協働での実践の有効性を実感しております。



～老健入所棟・其の二～

やむを得ず在宅復帰が叶わず、長期入所となる入所者さんが多いことも現状です。苑では看取りケアの実践もしております。看取り期のみならず、入所時から継続した苑での生活があつてこそその **Quality of Death (QOD)** であることを念頭に置き、「ここに入所したからこそ、我が人生に悔いなし」と感じていただけるような生活を送ることができるよう支援を心掛けています。「長期的な入所＝退屈な毎日」ではなく、自分らしい毎日となるよう、お一人お一人の生活行為を支援できるよう努めています。入所により環境が大きく変化した入所者さんはこれまでの習慣や日課が激変します。認知症を有した入所者さんは混乱を生じます。苑では、他職種の皆さんの力を借りながら、「その人らしい生活＝意味のある作業への従事」という考えのもと、各入所者さんの興味・関心や役割・日課に配慮した作業療法の実践に努めています。しかしながら、意味のある作業を見つけ出すことは容易なことではありません。なかなか見つからない場合は OT と共に作業を行いながら意味づけをしていくことも有効なことも多く、「こんな作業に出会えてよかった」と作業に従事する入所者さんもいらっしゃいます。



～通所リハ～

苑を退所し、通所リハを利用しながら在宅生活を送る方もおります。リハ会議を活用しながら、在宅生活における課題に対して多職種協働で自立支援に当たり、自宅でのその人らしい生活を送ることができるよう努めております。入所棟と兼務の OT が在籍することで、切れ目のない支援を強化しています。

～その他～

リハ部内で毎月 1 回の事例検討会を開催しています。先輩から後輩へ伝えたい実践例や後輩の困難事例を部内で検討しています。最近ではコロナ禍ということもあり、パワーポイントで資料を作成し、Zoom を活用しての開催もしています。

また、法人内の他事業所へ出向き、生活機能向上連携加算の取り組みをしています。看護・介護職の皆さんが生活機能に着眼した生活リハビリを継続的に実施できるよう、手段や方法をお伝えするよう努めています。

OT の大半が子育て世代でもあるため、時間の使い方を工夫しながら日々の作業療法実践に取り組んでいます。

広報部から

・研修会情報をお知らせしております。

余白を有効活用して県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております。院内での小さな勉強会でも構いません。「他の病院から参加者を募り、実りある研修にしたい」「情報交換をしてお互いの技術や知識を高めたい」その思いが秋田の作業療法を発展させます。みんなで秋田を盛り上げていきましょう。情報お待ちしております。宛先はこちら akita_ot_kouhou@akita-ot.jpn.org

編集後記

コロナウイルスのワクチン接種がはじまりましたね。この文章を作成している現在は、2月下旬のため、医療従事者の先行摂取をしている段階です。月並みですが早くこの事態が収束してまた以前のように居酒屋で騒ぎたいなあと思います。やっぱり面と向かって話をしたり、同じ料理を味わいたいですね。はやくコロナが収束することを祈ります。(mura)

(一社)日本義肢協会登録
東北 101号



株式会社

千秋義肢製作所

義手・義足・装具・車椅子
リハビリ用品

秋田市新屋豊町 1-22

TEL 018-823-3380

FAX 018-862-5126

<http://www.sensyugishi.co.jp>

SAKAImed

立位移動補助具 アクティーモ NR

actimoNR

早期活動を促す

新しいリハビリテーション

脳卒中発症後早期の方でも、下肢・体幹を支持保持して安全に立位姿勢を保てる設計で、早期からの立位・移動リハビリテーションに最適です。



お問い合わせ先

酒井医療株式会社

www.sakaimed.co.jp

東北支店 盛岡営業所
(青森・秋田・岩手エリア担当)
TEL : 019-656-5336

東北支店 仙台営業所
(宮城・山形エリア担当)
TEL : 022-390-6840

仙台営業所 郡山オフィス
(福島エリア担当)
TEL : 024-927-0231